

た終活講座を企画してですが、今回は少し視点を
変えたものに挑戦しました。というのも、これまで
の納骨や葬儀といったテーマの決め方ではなく
「お一人様」というある種のカタゴライズした対
象を設定した内容のものでした。終活における
情報収集を一人で取り組んでいる方も多い
という事は、常日頃感じておりました。実はこ
の「お一人様」というのは、「独身の一人暮らし
の方」という意味ではありません。夫婦世帯も一
人が旅立ればお一人様であり、子供がいても遠方
に住んでいて、頼れる環境にないという方もいま
す。つまり拡大解釈すれば、多くの方が「お一人
様予備軍」に該当してくるわけです。これを既に
心得上で参加された方も多く、それゆえに的
絞られた内容の濃い講座になったかと思えます。
こうして意図的に「お一人様」にターゲットを定
めた企画を試みたわけですが、個人的には成功事
例として数えてよいかと思っています。この手法
の最大のメリットは、講座を主催した話し手が聞
き手の立場をより具体的に想定でき、広い間口で
なくピンポイントに内容を展開できるということ
です。同じ手法を用いれば、性別や年齢層、親の
看取りに特化するなど様々なカタゴライズを設定
できるのです。今後の引き出しとして備えていき
たいと思います。

2シリーズの仏教講座 新本堂にて再スタート!

本堂の改築工事が一段落したことで、長らく開
催していなかった仏教講座を再スタートさせまし
た。ここ数か月間でやった内容は2つ、一つはこ
れまでも実施していた仏教の教えをより身近な視
点で捉えながら学ぶ「仏の教え講座」、二つ目は
今回から始まった新シリーズの「声に出して読む
お経講座」です。前者については改築工事前から
継続してきたものではあります。今回般若心経
講座のアナザーエディションという形で、以前
取り上げた般若心経をまた違った角度で捉えた内
容のものを講座にしました。このシリーズは私自
身が咀嚼した仏教の世界観をいかにアウトプット



(上) 声に出して読むお経講座の様子
(下) 仏の教え講座「般若心経」の様子

できるか? という自分への課題でもあり、またそ
れを客観的な目線で見ると魅力的で興味深い教
に繋げていくかというトレーニングのようなもの
です。また、もう一つの「声に出して読むお経講
座」は、今回新たに始動した新シリーズです。昔
の呼び名で言えば、読経会と呼ばれるものにあ
りますが、お経に親しむという趣旨に加えて、お
腹から声を出すといった発声における健康的側
面に注目したいという意向からこのネーミング
にしました。何しろ初めての試みなので、開講前
は参加者の皆様がしつかり大きな声を出してく
るかという心配がありました。蓋を開けてみれば
全く問題なく和やかな雰囲気で見ることが出
てきました。仏教を学ぶことはもちろん大切なこ
とではあります。仏教そのものを学ぶというより
仏教を軸として自己を学ぶかというところに重
きを置いた方がより理想的なスタンスかと思いま
す。お経の向き合い方も自己を主体として自己
実践を重視すべきです。ある意味仏教は学習より
実践を重視すべきです。そのファーストステ
ップとして、この講座は一役を担えるかと思いま
す。お経の中心を学ぶだけでなく、声に出して読
むという能動性は他の講座にはない魅力であり、
このシリーズもしつかりと継続していきたいと思



生中継を終えてリポーター岩尾さんとの写真撮影
(住職、岩尾さん、フランシス先生、子供達)
ほっとニュース北海道 2月3日6時35分頃

います。何より今の新しい本堂に人が集まり、
皆で心を整えてお経を読むという光景は、理想
郷づくりの賜物であり、私自身非常に嬉しく思
うと同時にやり甲斐を感じます。ご興味のある
方は今回の折には是非ご参加下さい。

寺子屋イングリッシュが NHKの報道番組にて生出演

先般あるオフアールを頂き、NHKの報道番組
ほっとニュース北海道にて、お寺の英会話寺子
屋イングリッシュが生中継されました。昨今
全国的に展開するお寺の多様な活動をリサー
チした結果、うちがピックアップされたという
わけです。こういう視点でこのお寺を客観視した
時には、非常に個性的で話題性も高く、タイ
ムリな存在であるというのを改めて実感させ
られました。わずか四分半程度の内容ではあり
ましたが、住職の読経に始まり子供達が英語の
歌を歌う元氣な姿が放映され、そのギャップが
面白く印象的な生中継でした。これまでメ

アへの露出は、どちらかと言えば消極的でした
が、今は考え方を換え、頂いたオフアールには可
能な限り応えようと思っております。お参りに行
く度に、「住職さん、こないだテレビに出てた
ね!」と声をかけられ、やはり顔見知りの住職
がテレビに出れば皆喜んでくれます。加えてう
ちの子供達も嬉しいようです。(笑)

また近況として、今年の英検にて4級を合格
した6年生の生徒が二人おりました。英検対策
を指導してきた私自身の目から見ても、4級の
レベルは単語の量や文法の難易度からすると、
小学生にとっては決して楽ではなく、目標設定
が高過ぎたと反省していたところでした。その
矢先の報告だったので、心が躍るほど嬉しく再
度この目標でトライしてみたいという気持ちに
なりました。お寺でのこの起案が人の役に立
ており、それが明確な結果となって現れたこと
は大きな励みです。継続してきたことで知名度
も高まり、地域でのお寺の印象も親しみやす
いものになってきた実感もあります。今後も積極
的に取り組んでいきたいと思っております。

OTERADE guitar 4月より子供向けギター教室開講

お寺のあり方について理想を語れば、「子供
が集まるお寺」という構想が必ずあがってきま
すが、これを実現するのは中々容易なことでは
ありません。幸いにして私達には先述した寺子
屋イングリッシュという大きなコンテンツがあ
るので、常に子供達の声が届かない日常がルー
ティン化していません。言ってみればこの私達の
日常は、実は比類ない持ち味であり、今回その
個性を更に伸ばすべく、新たに子供向けギタ
ー教室をスタートさせます。

寺子屋イングリッシュのお楽しみ会の際、演
奏者としてお招きした田中さんご夫婦とご縁を
授かったことがきっかけとなりました。英会話
はまさに需要のど真ん中にスポットをあてたわ
けですが、ギター教室は言わば痒いところに手

を伸ばした形になります。まだまだこの辺りは高
齢化率が高く、子供の習い事のレパートリーも少
ないので、そこに一石を投じることが出来ればと
思っています。多くは未知数ですが、これから前
に進みながら色々修正していく所存です。寺づく
りもそうですが、何かを始める時は基本的に失敗
は恐れず、そこから学ぶことを最大限得ようとい
う思考様式は染み付いています。タイミング的に
はコロナウイルスの影響で難しい状況ですが、ゼ
ロから立ち上げていくことには随分慣れました。
時間がかかってもしつかりと軌道に乗せていこう
と思えます。同封のご案内を是非ご参照下さい。

新本堂改築工事ひとまず終了!

「ひとまず」と書いたのは、私自身何をもって終
わりとすればよいかかわからず、まだまだ詳細部
分は残っているからです。現状を言えば、法事や
イベントの際、新本堂は既に稼働している状態
です。まだまだ手掛けるところはあり、改めて寺づ
くりには終わりが無いことを実感しています。時
代の要求に添って常に修正・改革をしていかな
ければならないのは、ソフト面同様、ハード面でも
同じことが言えるようです。



本堂の一角を利用したキッズスペース



ご本尊下部に収納した状態の須弥壇

詳細部分はまた取り掛かった時点で取り上げ
るとして、現時点でご紹介できる部分をお話致
しますと、まず発想が独特なキッズスペースの
存在です。本堂の一角が通常モードではキッズ
スペースになっていきます。製作段階で良案が浮
かび、うちの小さな子供達の来客が多い
お寺はこのスペースが重宝すると思えました。
英語やヨガの保護者の方や子供連れで参りに来
られる方も、その間子供達が遊んでいられるわ
けです。もちろん必要に応じて撤収出来るよう
に簡易的な作りをしています。そして次に上げ
るのは収納式須弥壇です。須弥壇とはご本尊さ
んをお祀りする為の祭壇ですが、これが必要に
応じて収納できるように作りました。仏式法要
以外の用途の際、これを後背部に収納すればよ
り広いスペースを有効活用できるわけです。こ
れも製作段階で思い付いたのですが、ご寺院様
方の賛否両論はあるにせよ、コンサート様式の
ようなイベントでは価値を發揮します。また子
供が走り回るような行事の際は須弥壇自体を破
損から守ることもできます。元々本堂をリフォーム
の中で建てたという減多にないコンディション
の制約が多く、本堂らしい本堂が体現出来ない
苦悩が多々ありました。しかしこれを逆手に取り
、既存の本堂らしい本堂の姿を追求するのを